

# Veritas NetBackup™ リリース スノート

リリース 9.1.0.1

マニュアルバージョン 1

VERITAS™

# Veritas NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2021-09-16

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2021 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
2625 Augustine Drive  
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の Web サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、Veritas の Web サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

## マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

[NB.docs@veritas.com](mailto:NB.docs@veritas.com)

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

## Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する Web サイトです。製品によって異なりますが、SORT はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。SORT がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>NetBackup 9.1.0.1 について</b>	9
	NetBackup 9.1.0.1 のリリースについて	9
	NetBackup の最新情報について	10
	NetBackup サードパーティの法的通知について	10
<b>第 2 章</b>	<b>新機能、拡張機能および変更</b>	11
	NetBackup の新しい拡張と変更について	11
	NetBackup 9.1.0.1 の新機能、変更点、拡張機能	12
	プライマリサーバーとメディアサーバーに搭載された Solaris での NetBackup の EOL	12
	Hyper-V 用 NetBackup SCVMM プラグインの EOL	12
	Veritas 用語の変更点	12
<b>第 3 章</b>	<b>操作上の注意事項</b>	14
	NetBackup 9.1.0.1 の操作上の注意事項について	14
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	15
	CA の移行を開始した後、接続エラーが発生することがある	15
	Windows で NetBackup 9.1.0.1 のアップグレードが失敗した場合に 以前のログフォルダ構造に戻す	15
	ネイティブインストールの要件	16
	NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名 を使用する必要がある	16
	インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールし ないでください	17
	HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて	17
	NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	17
	完全カタログリストア後に NetBackup 異常検出管理サービスが開始 しない	17
	NBAC が有効な設定でインストールまたはアップグレード後にユー ザーを変更すると認証チェックに失敗する	19
	NAS-Data-Protection ポリシーのルート(「/」) フォルダのリストアが失 敗する	21
	非 WORM 対応のストレージから NetBackup がイメージを期限切れ にしようすると、ジョブの詳細にエラーが表示される	22

リソースグループ名にピリオド(.) が含まれると Microsoft Azure のバッ クアップが失敗する .....	22
デバイスツリーに表示されている古いデバイス .....	22
一時デバイスがファイルシステム資産として一覧表示される .....	23
<b>NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項 .....</b>	<b>23</b>
<b>NetBackup 9.1.0.1 がサポートするアクセス制御方式 .....</b>	<b>23</b>
<b>資産に対する RBAC 権限が制限されている作業負荷管理者がジョブ の処理を利用できない .....</b>	<b>24</b>
<b>X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特 定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある .....</b>	<b>25</b>
<b>NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が 発生する .....</b>	<b>25</b>
<b>Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、 NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する .....</b>	<b>26</b>
<b>NetBackup クラウドの操作上の注意事項 .....</b>	<b>26</b>
<b>クラウド作業負荷のスマート測定において、スナップショットサイズの計 算でエラーが発生する .....</b>	<b>26</b>
<b>VM の表示名にマルチバイト文字が含まれている場合、Windows ベー スの NetBackup プライマリサーバーまたはメディアサーバーで VM のリストアのリカバリ前チェックが失敗する .....</b>	<b>27</b>
<b>RHEL 8 でのクラウドリカバリホストの構成 .....</b>	<b>27</b>
<b>NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項 .....</b>	<b>27</b>
<b>サポート対象の Podman バージョンに誤ったエラーメッセージが表示 される .....</b>	<b>27</b>
<b>スナップショットジョブの実行中に CloudPoint を NetBackup 9.1.0.1 にアップグレードすると、スナップショットが失敗する .....</b>	<b>28</b>
<b>到達不能または停止状態にある VM の接続試行が失敗し、その VM にクレデンシャルが関連付けられている .....</b>	<b>28</b>
<b>タグ名に特殊文字を使用した問い合わせの編集がインテリジェントクラ ウドグループではサポートされない .....</b>	<b>29</b>
<b>RHEL 8.3 環境の Podman 層に古い IP アドレスエントリが保持され ている場合、CloudPoint サービスの開始または再起動が失敗す る場合がある .....</b>	<b>29</b>
<b>NetBackup Web UI で CloudPoint 検出の状態が失敗と表示される .....</b>	<b>30</b>
<b>新しい CloudPoint 資産の情報がリカバリに影響する可能性がある .....</b>	<b>30</b>
<b>アップグレード後、GRT オプションが有効になっている保護計画から     資産のサブスクライブが解除される .....</b>	<b>31</b>
<b>今すぐバックアップオプションがエラーで失敗する場合がある .....</b>	<b>31</b>
<b>新しい地域を追加するには新しいクラウドプラグイン構成が必要 .....</b>	<b>31</b>

バックアップジョブとリストジョブで、転送されたファイルの数が 0 と表示される .....	32
検出レベルが原因で VM ディスクが表示されない .....	32
スナップショットジョブが例外のために失敗する .....	32
スナップショットを削除しても NetBackup Web UI に表示される .....	32
ターゲットパスを削除して再作成すると個別リストアが失敗する .....	33
Gov クラウドまたは中国地域でパブリッククラウドがサポートされない .....	33
AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない .....	33
一貫したホストスナップショットが失敗する場合がある .....	33
[認証方式 (Authentication Method)] フィールドに空白が表示された IAM ロールを持つ AWS プラグインの構成 .....	34
ユーザーとパスワードの両方が更新されると権限拒否エラーが発生する .....	34
Google Cloud Platform の異なるソースおよびターゲットゾーンがサポートされない .....	34
壊れたファイルシステムが検出される .....	35
NetBackup Deduplication に関する注意事項 .....	35
マルチドメイン環境の WORM ストレージサーバーで「ストレージサーバーが停止しています ... (Storage server is down ...)」エラーによりバックアップジョブが失敗する .....	35
NetBackup for NDMP の操作上の注意事項 .....	36
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある .....	36
NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項 .....	36
増分バックアップのインスタンスピリュームをマウントできない .....	36
NetBackup for OpenStack VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup マスターサーバーがトークンを再発行しない .....	36
Web UI で NetBackup のバージョンが「NetBackup-CentOS3.10.0 9.0」ではなく「Netbackup_9001_beta1」と表示される .....	37
スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される .....	37
NBCA を使用して NetBackup マスターサーバーに接続できないリストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマットできない .....	37
リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される .....	38
新しい NetBackup for OpenStack VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構成に失敗する .....	38
NetBackup for OpenStack クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同期されない .....	38

ポートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアップされる .....	39
再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない .....	39
CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更される .....	39
NetBackup for OpenStack Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得できない .....	39
多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscriptable」で失敗する .....	39
SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない .....	40
NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項 .....	40
データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート .....	40
特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする .....	41
NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項 .....	42
スナップショットジョブが状態コード 927 で失敗する .....	42
HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートが状態コード 4213 で失敗する .....	42
指定した時点へのロールバック後のスナップショットの削除 .....	42
スナップショットからのインデックス操作でスナップショットの内容がカタログに正確に入力されない .....	43
NetBackup 仮想化の操作上の注意事項 .....	43
RHV VM のバックアップとリストアに最小限の権限を持つ役割が必要 .....	43
付録 A NetBackup ユーザーの SORT について .....	44
Veritas Services and Operations Readiness Tools について .....	44
付録 B NetBackup のインストール要件 .....	46
NetBackup のインストール要件について .....	46
NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新 .....	47
付録 C NetBackup の互換性の要件 .....	51
NetBackup のバージョン間の互換性について .....	51
NetBackup の互換性リストと情報について .....	52
NetBackup の End-of-Life のお知らせについて .....	52

付録 D	他のNetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	54
	NetBackup の関連マニュアルについて	54

# NetBackup 9.1.0.1 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 9.1.0.1 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

## NetBackup 9.1.0.1 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.11 の [「NetBackup の新しい拡張と変更について」](#) を参照してください。

### EEB およびリリース内容について

NetBackup 9.1.0.1 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 9.1.0.1 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、[『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』](#)にあります。

p.44 の [「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」](#) を参照してください。

## NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.1 は NetBackup 8.1 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

## NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/15143.html](https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html)

## NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

# 新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 9.1.0.1 の新機能、変更点、拡張機能](#)

## NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup の互換性リスト](#)に文書化されます。

---

**メモ:**『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の NetBackup バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの NetBackup へのプラットフォームサポートのバックデータが定期的に実行されます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

---

p.9 の「[NetBackup 9.1.0.1 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.52 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

## NetBackup 9.1.0.1 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 9.1.0.1 は、新機能を含まないメンテナンスリリースです。NetBackup 9.1.x 系列の多くの修正が含まれています。NetBackup 9.1.0.1 の修正の一覧については、次のガイドを参照してください。

[『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』リリース 9.0 および 9.x](#)

### アップグレードマニュアル

NetBackup 9.1.0.1 にアップグレードする手順については、[『NetBackup 9.1 アップグレードガイド』](#)を参照してください。

## プライマリサーバーとメディアサーバーに搭載された Solaris での NetBackup の EOL

Veritas は、SPARC および x86-64 アーキテクチャで Solaris を実行する NetBackup プライマリ（マスター）サーバーとメディアサーバーの EOL（ライフサイクル終了）を発表します。

この EOL は、このプラットフォームのクライアントサポートの終了を意味するものではありません。2021 年 6 月 7 日にリリースされた NetBackup 9.1 は、プライマリサーバーまたはメディアサーバーとして Solaris に配備された NetBackup がサポートされる最後のリリースです。目的のリリース、またはそれ以降のリリースにアップグレードする前に、サポート対象のバージョンに移行する必要があります。

Veritas は、[Veritas 製品ライフサイクル終了](#)ポリシーに従い、古いバージョンの NetBackup で Solaris プライマリサーバーおよびメディアサーバーをサポートします。

この EOL について詳しくは、次の技術情報の記事を参照してください。

[Solaris プライマリ（マスター）サーバーおよびメディアサーバーでの Veritas の EOL（ライフサイクル終了）に関する Veritas の発表](#)

## Hyper-V 用 NetBackup SCVMM プラグインの EOL

Hyper-V 用 NetBackup SCVMM プラグインは、NetBackup の次のリリースで廃止されます。

## Veritas 用語の変更点

Veritas では最新の用語を使用するため、特定の古い用語を最新の用語を置き換え始めています。

---

**メモ:** Veritas では用語の更新を続けているため、非推奨の用語と新しい用語が同じ意味で使用される場合があります。

---

NetBackup 9.1.0.1 では、次の用語が更新されました。

非推奨の用語	新しい用語
マスター	プライマリ (NetBackup Web UI のみ)
スレーブ	セカンダリサーバーまたはメディアサーバー
ホワイトリスト	許可リスト
ブラックリスト	ブロックリスト
ホワイトハット	倫理的
ブラックハット	非倫理的

# 操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 9.1.0.1 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup と Veritas CloudPoint に関する操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Deduplication に関する注意事項](#)
- [NetBackup for NDMP の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 仮想化の操作上の注意事項](#)

## NetBackup 9.1.0.1 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはペリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。NetBackup の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

## NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなりリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 9.1.0.1 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### CA の移行を開始した後、接続エラーが発生することがある

NetBackup は、キー強度が 2048 ビット、4096 ビット、8192 ビット、および 16384 ビットの認証局をサポートするようになりました。NetBackup 9.1.0.1 をインストールまたはアップグレードした後、デフォルトでは、キー強度が 2048 ビットの新しいルート CA が配備されます。

NetBackup CA の移行中に NetBackup Web UI に接続する場合は、正常な通信のために Web UI に再度サインインする必要があります。

### Windows で NetBackup 9.1.0.1 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[Veritas NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 9.1.0.1 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[Veritas NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』の mklogdir コマンドを参照してください。

## ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール（クライアントまたはメディアサーバーのいずれか）のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf
rpm -U --noscripts VRTSnbpck.rpm
rpm -U VRTSpbx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpcdea.rpm
```

## NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123（「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」）と RFC 952（「DOD Internet Host Table Specification」）の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字（\_）は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.000125019](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019)

これらの規格は、すべての NetBackup ホストを含む、すべての計算ホストに適用する必要があります。レガシーの環境と機能に対応するため、2010 年より前に実装された NetBackup 機能では、一部の準拠しない文字が引き続き許可されます。ただし、これより新しい機能や最近統合されたサードパーティコンポーネントは、業界規格に準拠しないホスト名についてテストされておらず、このようなホスト名との互換性はない可能性があります。

状況によっては、規格に準拠するネットワークホスト名のエイリアスでネームサービスを構成し、NetBackup を構成するときにエイリアスを使用できる場合があります。ただし、すべての機能との互換性が確実なのは、規格に準拠するホスト名を使用した場合です。

## インストール DVD を挿入すると表示されるメニューからインストールしないでください

インストール DVD をディスクドライブに挿入すると、オペレーティングシステムのユーザーインターフェース ウィンドウ (Solaris の [ファイルマネージャ] など) が開く場合があります。Veritas では、このウィンドウを使用して NetBackup 製品をインストールしないことをお勧めします。このウィンドウを使用すると、予測できない結果が生じる可能性があります。『[NetBackup インストールガイド](#)』に記載されているインストール手順に必ず従ってください。

## HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall と swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが中止されます。グローバルコンテナにインストールすると、グローバルビューにのみインストールするためにはパラメータがすべての swremove と swinstall コマンドに追加されます。

## NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 9.1.0.1 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## 完全カタログリストア後に NetBackup 異常検出管理サービスが開始しない

完全カタログリストア後に、NetBackup 異常検出管理サービス (nbanomalymgmt) が開始しない場合があります。これは通常、完全カタログリストア中にサービスが稼働している場合に発生します。

nbanomalymgmt サービスログに次のエラーが記録されている場合があります。

```
14:27:13.807 [8100.9844] <16> nbanomalymgmt: Error occurred while
gathering data
14:27:13.808 [8100.9844] <2> nbanomalymgmt: State:[3], ExitCode:[0],
WaitHint:[300000], CheckPoint:[2]
14:27:13.808 [8100.9844] <8> WaitForChildProc: Process [DETECTION]
event handle is NULL
14:27:13.808 [8100.9844] <2> nbanomalymgmt: State:[3], ExitCode:[0],
WaitHint:[300000], CheckPoint:[3]
14:27:13.808 [8100.9844] <8> WaitForChildProc: Process [ALERT]
event handle is NULL
14:27:13.809 [8100.23948] <4> nbanomalymgmt: Worker thread exited.
So shutting down the service.
```

完全カタログリストア中に **nbanomalymgmt** サービスが実行され、異常検出データベース (NB\_Anomaly.db) が破損し、それが原因でこの問題が発生している可能性があります。

回避方法:

カタログリストアがすでに完了し、**nbanomalymgmt** サービスが実行状態で、それによりデータベースが破損した場合はサービスを開始できないため、回避方法として次の操作を実行する必要があります。

1. 代替の場所にカタログをリストアする前、またはディザスタリカバリ (DR) 中は、**nbanomalymgmt** サービスを停止します。

次のコマンドを実行します。

**Linux** の場合: /usr/openv/netbackup/bin/nbanomalymgmt -stop

**Windows** の場合: <install\_path>\NetBackup\bin\nbanomalymgmt -stop

または、**Windows** サービスコントロールマネージャーから、「NetBackup 異常検出管理サービス」を停止します。

2. **anomaly\_detection** フォルダ内のファイルをすべて削除します。フォルダの場所は次のとおりです。

**Linux** の場合: /usr/openv/var/global/anomaly\_detection

**Windows** の場合:

<install\_path>\NetBackup\var\global\anomaly\_detection

3. カタログを代替の場所にリストアし、次の場所に **anomaly\_detection** フォルダのすべてのファイルをコピーします。

**Linux** の場合: /usr/openv/var/global/anomaly\_detection

**Windows** の場合:

```
<install_path>¥¥NetBackup¥¥var¥¥global¥¥anomaly_detection
```

- リストアが完了したら、次のコマンドを使用して nbanomalymgmt サービスを開始します。

**Linux** の場合: /usr/openv/netbackup/bin/nbanomalymgmt -start

**Windows** の場合: <install\_path>¥¥NetBakcup¥¥bin¥¥nbanomalymgmt -start

または、**Windows** サービスコントロールマネージャに移動し、NetBackup 異常検出管理サービスを起動します。

カタログリストア時の異常検出データベースの破損を回避するには:

- 完全カタログリストアまたはディザスタリカバリを実行する前に nbanomalymgmt サービスを停止します。次のコマンドを実行します。

**Linux** の場合: /usr/openv/netbackup/bin/nbanomalymgmt -stop

**Windows** の場合: <NetBackup Install

```
Location>¥¥NetBakcup¥¥bin¥¥nbanomalymgmt -stop
```

または、**Windows** サービスコントロールマネージャから、NetBackup 異常検出管理サービスを停止します。

- anomaly\_detection フォルダ内のファイルをすべて削除します。フォルダの場所は次のとおりです。

**Linux** の場合: /usr/openv/var/global/anomaly\_detection

**Windows** の場合:

```
<install_path>¥¥NetBackup¥¥var¥¥global¥¥anomaly_detection
```

- リストアが完了したら、次のコマンドを使用して nbanomalymgmt サービスを開始します。

**Linux** の場合: /usr/openv/netbackup/bin/nbanomalymgmt -start

**Windows** の場合: <install\_path>¥¥NetBakcup¥¥bin¥¥nbanomalymgmt -start

または、**Windows** サービスコントロールマネージャに移動し、NetBackup 異常検出管理サービスを起動します。

## NBAC が有効な設定でインストールまたはアップグレード後にユーザーを変更すると認証チェックに失敗する

NBAC が有効な設定で NetBackup のインストールまたはアップグレード後にユーザーを変更すると、認証チェックに失敗します。

サービスユーザー（特権のないユーザーまたはルート以外のユーザー）アカウントについて詳しくは、『[NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド](#)』を参照してください。

インストールまたはアップグレード中に次のエラーメッセージが表示されます。

```
bprd failed to grant authorization check permission to host  
'host1'  
118-VxSS authorization failed: Please make sure NBAC-Authorization  
is properly configured and running and you have necessary  
permissions to do these operations.
```

この問題は、新しいサービスユーザーがセキュリティ管理者グループに属していないために発生します。

回避方法:

この問題を解決するには、次の例のいずれかを使用し、新しいサービスユーザーをセキュリティ管理者グループに追加する(または古いサービスユーザーを削除する)必要があります。

## 例 1

次のいずれかの場合、認証チェックが失敗します。

- nbserviceusercmd -changeUserコマンドを使用して、ルート(UNIXの場合)またはローカルシステム(Windowsの場合)ユーザーを新しいサービスユーザーに変更した。
- NetBackup 9.1.0.1のアップグレードを、ルート以外またはローカルシステムユーザー以外のサービスユーザーで実行した。

認証チェックのエラーを解決するには:

1. ユーザーを変更した後、すべての NetBackup サービスが稼働中であることを確認します。
2. 次のコマンドを実行して、新しいサービスユーザーをセキュリティ管理者グループに追加します。

```
vssaz addazgrpmember --azgrpname "Security Administrators"  
--prplinfo ATP,atdomain,new service user  
vssaz コマンドのディレクトリパスは次のとおりです。
```

UNIX の場合: /usr/openv/netbackup/sec/az/bin

Windows の場合: <install\_path>\sec\az\bin

## 例 2

nbserviceusercmd -changeUserコマンドを使用してサービスユーザーを別のサービスユーザーに変更すると、認証チェックが失敗します。

### 認証チェックのエラーを解決するには:

1. ユーザーを変更した後、すべての NetBackup サービスが稼働中であることを確認します。
2. 次のコマンドを実行し、古いサービスユーザープリンシパルをグローバルセキュリティ管理者グループから削除します。

```
vssaz removeazgrpmember --azgrpname "Security Administrators"
--prplinfo ATP,atdomain,older user
```

3. 次のコマンドを実行して、新しいサービスユーザーをセキュリティ管理者グループに追加します。

```
vssaz addazgrpmember --azgrpname "Security Administrators"
--prplinfo ATP,atdomain,new service user
```

vssaz コマンドのディレクトリパスは次のとおりです。

**UNIX の場合:** /usr/openv/netbackup/sec/az/bin

**Windows の場合:** <install\_path>\sec\az\bin

### 例 3

たとえば NetBackup 9.1 の新規インストール後に、nbserviceusercmd -changeUser コマンドを使用して、サービスユーザーがルート (UNIX の場合) またはローカルシステム (Windows の場合) ユーザーに変更されたとします。セキュリティを強化するため、古いサービスユーザーをセキュリティ管理者グループから削除することをお勧めします。

グループ内の古いサービスユーザーの古いエントリが原因で発生する可能性のあるセキュリティの脆弱性を解消するには:

1. ユーザーを変更した後、すべての NetBackup サービスが稼働中であることを確認します。
2. 次のコマンドを実行し、古いサービスユーザープリンシパルをグローバルセキュリティ管理者グループから削除します。

```
vssaz removeazgrpmember --azgrpname "Security Administrators"
--prplinfo ATP,atdomain,older user
```

## NAS-Data-Protection ポリシーのルート ('/') フォルダのリストアが失敗する

NAS-Data-Protection ポリシーのスナップショットイメージからリストアするときに、リストアパターンとして「/」を選択すると、リストアはエラー 133 (無効な要求) で失敗します。

回避方法:

リストアに「/」フォルダを選択しないでください。代わりに、「/」ツリー構造を展開し、リストアするアイテムを個別に選択します。

## 非 WORM 対応のストレージから NetBackup がイメージを期限切れにしようとすると、ジョブの詳細にエラーが表示される

NetBackup は、通常、期限切れのバックアップの削除をカタログから試行し、その後ストレージ上で試行します。バックアップがカタログの有効期限を越えたストレージで WORM ロックされている場合、ストレージからデータを削除しようとすると、ジョブは部分的に成功した状態で完了します。ジョブは状態(1)で完了し、ジョブの詳細にイメージごとのエラーコード 2060069 が報告されます。各クリーンアップサイクルでは、WORM ロックされたイメージの削除がストレージによって正常に許可されるまで、バックアップの削除が試行されます。

回避方法:

クリーンアップサイクルから WORM イメージを削除するには、必要に応じて次のいずれかの操作を実行します。

- 手動インポートを実行して、WORM イメージをカタログに再び取り込みます。
- `nbdelete -purge_deletion_list -backup_id` コマンドを使用して、削除作業リストから WORM イメージバックアップ ID を削除します。このコマンドでは、これらのイメージはストレージから削除されないため、ストレージからイメージを手動で削除する必要があります。

## リソースグループ名にピリオド(.) が含まれると Microsoft Azure のバックアップが失敗する

VM またはディスクのスナップショットの場合、ディスク名または資産リソースグループ名にピリオドが含まれていると、バックアップジョブが失敗します。

回避方法:

- リソースグループ名にピリオドが含まれている場合は、ディスクをピリオドが含まれないリソースグループに移動します。
- ディスク名にピリオドが含まれている場合は、ディスクの名前を変更します。

## デバイスツリーに表示されている古いデバイス

インデックス付けまたはリストアの処理中に、ボリューム内に存在する古いデバイスがクリーンアップされず、デバイスツリーに表示されることがあります。

回避方法:

1. デバイスをマウントしたファイルシステムをマウント解除します。(必要な場合には `force unmount` を使用)

2. いずれかのパーティションが LVM に属している場合は、`vgreduce` コマンドと `pvremove` コマンドを使用して、ディスクからボリュームグループを削除します。
3. `blockdev -flushbufs` コマンドを実行して、そのデバイスへの未解決の参照を削除します。
4. デバイツリーからデバイス参照を削除します。たとえば、ディスク全体またはパーティションディスクの `/dev/xvdf`、`/dev/disk/by-path`、`by-id`、`by-label`、`by-partuuid`、および `by-uuid` など
5. 次のコマンドを使用して、`sysfs` からデバイスを削除します。
6. `echo 1 > /sys/block/device-name/device/delete`  
この場合、デバイス名は `xvdf` の場合があります。
7. この問題を解決するには、ホストを再ブートします。

## 一時デバイスがファイルシステム資産として一覧表示される

検出プロセスとリストア処理が同時に実行されている場合、リストア処理の間に、一時デバイスが検出され、ファイルシステム資産として表示されることがあります。リストア処理が完了すると、一時デバイスはその後の検出時にファイルシステム資産として表示されなくなります。

## NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 9.1.0.1 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースの詳細については、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.52 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

## NetBackup 9.1.0.1 がサポートするアクセス制御方式

NetBackup の役割ベースのアクセス制御 (RBAC) は、Web UI と API でのみ利用可能です。NetBackup のその他のアクセス制御方法は、拡張監査 (EA) を除いて、Web UI と API ではサポートされません。EA を使用して構成されているユーザーは、Web UI と API に対する完全なアクセス権を持ちます。

詳しくは、『[NetBackup Web UI 管理者ガイド](#)』を参照してください。

## 資産に対する RBAC 権限が制限されている作業負荷管理者がジョブの処理を利用できない

NetBackup Web UI でジョブを表示および管理する場合は、次の問題に注意してください。

- ジョブは実行されるまで資産 ID を受信しません。つまり、キューへ投入済みのジョブには資産 ID が存在しません。作業負荷に対するより詳細な資産の権限が付与された役割を持つユーザーは、キューへ投入済みのジョブを表示またはキャンセルできません。  
この動作は、ジョブの完全な権限を持つ RBAC の役割や、特定の作業負荷のすべての資産を管理できる役割を持つユーザーには影響しません。
- 資産がまだ検出されていない場合、ジョブは資産 ID を受信しません。作業負荷に対するより詳細な資産の権限が付与された役割を持つユーザーは、その資産のジョブをキャンセルまたは再起動できません。  
この動作は、ジョブの完全な権限を持つ RBAC の役割や、特定の作業負荷のすべての資産を管理できる役割を持つユーザーには影響しません。
- クラウド変換ジョブには資産 ID が設定されていません。VMware 資産に対するより詳細な資産の権限が付与された役割を持つユーザーは、これらのジョブを表示できません。  
この動作は、ジョブの完全な権限を持つ RBAC の役割や、すべての VMware 資産を管理できる役割を持つユーザーには影響しません。

### 例 1 - 資産の権限が制限されている VMware 管理者は、キューに投入済みのジョブをキャンセルできない

VMware vCenter または 1 つ以上の VM に対する RBAC 権限のみを持つユーザーについて考えてみましょう。

- このユーザーは、vCenter または VM のキューへ投入済みのジョブを表示できません。
- 同様に、このユーザーは vCenter または VM のキューへ投入済みのジョブをキャンセルできません。

## 例 2 - 資産の権限が制限されている VMware または RHV 管理者は、未検出の資産のジョブをキャンセルまたは再起動できない

VMware vCenter または RHV サーバーに対する RBAC 権限のみを持つユーザーについて考えてみましょう。このユーザーには、これらの資産に対する 1 つ以上のジョブの権限がありますが、すべての作業負荷資産に対するジョブの権限はありません。

- 環境に新しい資産が追加されましたが、検出プロセスがまだ実行されていません。
- 既存のインテリジェントグループは、新しい資産を含めるように構成されます。
- バックアップが実行されると、バックアップに新しい資産が含まれます。
- このユーザーは、新しい資産に対するジョブをキャンセルまたは再起動できません。

## X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動が特定の Linux プラットフォーム上で失敗することがある

X フォワーディングを使った NetBackup 管理コンソールの起動は、特定の Linux プラットフォーム、特に VMware 上の Red Hat Enterprise Linux 6.0 (RHEL 6.0) で失敗する場合があります。この問題は、デフォルトの GNU C ライブライ (glibc) と比較的新しいハードウェアでの Advanced Vector Extensions (AVX) との非互換性に起因しています。この問題は、glibc の今後のリリースで対処されます。

回避策: `runInstaller` を実行する前に `export LD_BIND_NOW=1` コマンドを実行します。

## NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときにのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

## Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

[http://bugs.sun.com/bugdatabase/view\\_bug.do?bug\\_id=6901233](http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233)

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

## NetBackup クラウドの操作上の注意事項

NetBackup Cloud Storage では、クラウドの STaaS (Storage as a Service) ベンダーからデータをバックアップ、リストアできます。この項では、NetBackup9.1.0.1 の NetBackup クラウドに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### クラウド作業負荷のスマート測定において、スナップショットサイズの計算でエラーが発生する

NbDeployutil 容量レポートが実際の使用済みサイズではなく合計ボリュームサイズをスナップショットサイズとして報告する場合があるため、クラウド作業負荷のスナップショットサイズの計算でエラーが発生する可能性があります。ログを参照して、警告メッセージを特定します。

この状況は次の原因で発生する場合があります。

- AWS、Azure、または Azure Stack Hub プラグインの場合、スナップショットのサイズを取得するための権限が不足しています。プラグインの構成で、次の権限が追加されているかどうかを確認します。

AWS の場合:

`"ebs>ListSnapshotBlocks",`

Azure および Azure Stack Hub の場合:

`"Microsoft.Compute/snapshots/beginGetAccess/action",`  
`"Microsoft.Compute/snapshots/endGetAccess/action",`

- スナップショットサイズの計算に使用されるクラウド API の最大要求数の制限に達しました。
- ネットワーク接続の最大再試行回数を超えるました。

VMの表示名にマルチバイト文字が含まれている場合、WindowsベースのNetBackupプライマリサーバーまたはメディアサーバーでVMのリストアのリカバリ前チェックが失敗する

Azureクラウドは、イメージがWindows OSの場合はマルチバイト文字のVM表示名をサポートしています。ただし、NetBackupプライマリサーバーまたはメディアサーバーでWindows OSが実行されている場合、次のエラーが発生することがあります。Failed to invoke pre-recovery-check request.

回避方法:

元の場所のリストアまたはパラメータのリストアには、Linuxのプライマリサーバーまたはメディアサーバーを使用します。

## RHEL 8でのクラウドリカバリホストの構成

RHEL 8でクラウドリカバリホストを構成するためにims\_system\_config.pyを実行する前に、Python 2をインストールし、Python 2からPythonへのソフトリンクを作成します。ims\_system\_config.pyスクリプトでは、Python 2が使用されます。

## NetBackupとVeritas CloudPointに関する操作上の注意事項

この項では、Veritas CloudPointとNetBackup 9.1.0.1に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### サポート対象のPodmanバージョンに誤ったエラーメッセージが表示される

RHEL 8.4バージョンにCloudPointをインストールしようとすると、特定のPodmanバージョンがサポートされていないことを示す次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
"podman server version: 2.2.1 Supported: false
CloudPoint doesn't support podman version.:2.2.1
Please upgrade your podman installation, else some functionality
may not work.."
```

この誤ったエラーメッセージは無視して、インストールを続行できます。Podmanバージョン2.0.5と2.2.1はサポートされています。

## スナップショットジョブの実行中にCloudPointをNetBackup 9.1.0.1にアップグレードすると、スナップショットが失敗する

スナップショットジョブの実行中にCloudPointをNetBackup 9.1.0.1にアップグレードしようとすると、エラー「資産で操作はすでに進行中です(Operation already in progress on asset)」でスナップショットが失敗します。

アップグレード後、ジョブは自動的に再開されません。

回避方法:

1. NetBackup Web UI で CloudPoint ホストを無効にします。
2. 資産で CloudPoint ワークフローが実行されているかどうかを、ログと NetBackup Web UI で確認します。
3. 実行中のすべての CloudPoint ジョブが、完了または失敗の状態で完全に実行されるまで待機します。
4. CloudPoint のアップグレードを開始します。

## 到達不能または停止状態にあるVMの接続試行が失敗し、そのVMにクレデンシャルが関連付けられている

VMに関連付けられたクレデンシャルを使用して接続されているVMは、停止された、到達不能、またはVMのパスワードが変更されたことが原因で、エラー状態になる可能性があります。

その後に再接続を試行すると、VMがすでに接続されていることを示す誤ったエラーメッセージが表示され、接続が失敗します。

回避方法:

次のNetBackup REST APIを呼び出し、更新されたクレデンシャルを credential\_name パラメータに指定して、VMの状態を更新します。

APIのURL:

```
https://(NetBackup_PRIMARY_SERVER)/netbackup/config/snapshotproviders/  
connected-virtual-machines/{assetId}
```

APIのメソッド:

PUT

API のヘッダー:

```
Content-Type: application/vnd.netbackup+json;version=3.0
Accept:application/vnd.netbackup+json;version=6.0
Authorization: {NetBackup Token}
```

API の要求ペイロード:

```
{
  "data": {
    "type": "vmconnect",
    "attributes": {
      "vmConnectionAttributesList": [
        {
          "name": "credentialName",
          "singlevalue": "<credential_name>"
        }
      ]
    }
  }
}
```

## タグ名に特殊文字を使用した問い合わせの編集がインテリジェントクラウドグループではサポートされない

インテリジェントクラウドグループを作成する際に、スペースや特殊文字 ((, ), &, ¥, /, ", ' , [, ], {, や } など) を含む資産タグ名 (クラウドプロバイダから参照) を含む問い合わせを指定すると、後で問い合わせを編集してパラメータを変更することができません。

この制限により、インテリジェントグループの正常な作成と、そのグループへの保護計画の適用が妨げられることはできません。この制限の影響を受けるのは、問い合わせの編集機能のみです。

回避方法:

この問題を回避するには、指定された特殊文字がタグ名に含まれていないことを確認し、新しいタグ名を使用して新しい問い合わせを作成します。

## RHEL 8.3 環境の Podman 層に古い IP アドレスエントリが保持されている場合、CloudPoint サービスの開始または再起動が失敗する場合がある

CloudPoint サービスコンテナの再起動時に、次のエラーが発生する場合があります。

```
Error adding network: failed to allocate for
range 0: 10.89.0.140 has been allocated to
02da9e9aab2f79303c53dfb10b5ae6b6b70288d36b8ffffbdfabba046da5a9afc,
duplicate allocation is not allowed
ERRO[0000] Error while adding pod to CNI network
"flexsnap-network": failed to allocate for
range 0: 10.89.0.140 has been allocated to
02da9e9aab2f79303c53dfb10b5ae6b6b70288d36b8ffffbdfabba046da5a9afc,
duplicate allocation is not allowed
Error: error configuring network namespace for container
02da9e9aab2f79303c53dfb10b5ae6b6b70288d36b8ffffbdfabba046da5a9afc:
failed to allocate for range 0:
10.89.0.140 has been allocated to
02da9e9aab2f79303c53dfb10b5ae6b6b70288d36b8ffffbdfabba046da5a9afc,
duplicate allocation is not allowed"
```

この問題は、コンテナが停止したときに、コンテナに割り当てられた既存の IP を dir /var/lib/cni/networks/flexsnap-network/ から削除できなかった Podman サブシステムで発生します。

回避方法:

1. コンテナが停止したときに保持される古い IP アドレスを見つけます。たとえば、上記のエラーでは **10.89.0.140** です。
2. 次のコマンドを実行し、dir /var/lib/cni/networks/flexsnap-network/ から古いエントリを削除します。

```
# rm /var/lib/cni/networks/flexsnap-network/10.89.0.140
```

3. サービスを起動します。

```
# podman start <service-name>
```

## NetBackup Web UI で CloudPoint 検出の状態が失敗と表示される

資産を作成してそれを削除し、別の地域で同じ名前と同じ構成の別の資産を作成すると、NetBackup Web UI で CloudPoint の検出状態が失敗と表示されます。

回避方法:

異なる地域で既存の名前を使用する資産を作成する前に、古い資産を削除して詳細検出を実行します。これにより、資産が CloudPoint サーバーで更新されます。

## 新しい CloudPoint 資産の情報がリカバリに影響する可能性がある

NetBackup 9.1 では、CloudPoint サーバー用に追加の資産情報が導入されました。この情報はリカバリ時に必須です。通常の操作の一環として、この新しい情報が検出され、

適切なデータベースにこの情報が入力されます。その情報が入力される前にリカバリを試みた場合、リカバリは失敗します。VeritasはAmazonウェブサービスとGoogle Cloud Platformの両方でこのエラーの発生を確認しましたが、Microsoft Azureでは確認していません。

回避方法:

この問題を解決するには、次のいずれかの方法を使用します。

- アップグレードの完了後、適切な検出プロセスで新しい情報がサーバーに入力されるまで少なくとも2時間待機します。
- または、リカバリする必要があるサーバーの検出を手動で実行します。NetBackup Web UIから[クラウド(Cloud)]、[CloudPointサーバー(CloudPoint Servers)]の順に選択し、特定のCloudPointサーバーを選択してから、[処理(Action)]メニューで[検出(Discover)]を選択します。

## アップグレード後、GRTオプションが有効になっている保護計画から資産のサブスクリープトが解除される

NetBackup 9.1.0.1にアップグレードすると、GRTオプションが有効になっている一部の資産が保護計画に自動的に再サブスクリープトされない場合があります。再サブスクリープトに失敗した資産について通知されます。例:

```
The asset <asset name> is unsubscribed from protection plan  
<protection plan name>
```

```
Failed to re-subscribe the <asset name> to protection plan <protection  
plan name> after conversion to new format. Please re-subscribe the  
asset manually.
```

回避策: 検出後に、再度資産を保護計画に再サブスクリープトします。

## 今すぐバックアップオプションがエラーで失敗する場合がある

NetBackup 9.1.0.1にアップグレードした後、「今すぐバックアップ(Backup now)」オプションが次のエラーで失敗します。

```
Cloud snapshot indexing is not supported for the specified asset.
```

回避方法:

資産の今すぐバックアップを実行する前に、検出を実行します。

## 新しい地域を追加するには新しいクラウドプラグイン構成が必要

既存のクラウドプラグイン構成に新しい地域を追加することはできません。プラグイン構成の編集機能は、複数のスレッドが同じプラグイン構成で動作するCloudPointデータベース

スに新しく追加された地域に対応できません。既存のクラウドプラグイン構成を編集して新しい地域を追加すると、新しい地域がバックアップウィザードからのリストアのリストに表示されません。

回避方法:

既存の構成と同じアカウントクレデンシャルを使用して新しい構成を作成し、新しい地域を含めます。

## バックアップジョブとリストアジョブで、転送されたファイルの数が0と表示される

バックアップジョブとリストアジョブでは、ジョブが成功した場合でも転送されたファイルの数は0と表示され、転送されたバイトは正しい値が報告されます。

## 検出レベルが原因でVMディスクが表示されない

バックアップコピーからVMをリストアした後、[仮想マシン (Virtual Machine)]の詳細ページの[ボリューム (Volumes)]タブにVMディスクが表示されません。CloudPointサーバーのレベル検出で仮想マシンディスクを仮想マシンにマッピングできません。マッピングするには構成レベルでの詳細検出を必要とするためです。

回避方法:

詳細検出を手動で実行します。プロバイダの構成を選択し、[検出 (Discover)]をクリックします。または、定期的な自動検出の実行により詳細検出が実行されるまで待機することもできます。

## スナップショットジョブが例外のために失敗する

CloudPoint VM のメモリ負荷が高いと、Flexsnap-MongoDB コンテナと Flexsnap Rabbitmq コンテナが再起動します。コンテナの再起動後に、オフホストエージェントサービスコンテナが Rabbitmq との通信を確立できません。この問題は、CloudPoint オンホストエージェントや CloudPoint オフホストエージェントなど、任意のエージェントサービスで発生する可能性があります。

回避方法:

該当の Flexsnap エージェントコンテナを再起動します。コマンド `docker restart <container_name>` を使用します。

## スナップショットを削除しても NetBackup Web UI に表示される

Amazonウェブサービス(AWS)コンソールから古いスナップショットを削除しても、削除したスナップショットは NetBackup Web UI に表示されます。

## ターゲットパスを削除して再作成すると個別リストアが失敗する

保護対象のVM資産では、ファイルシステムを再作成して同じドライブまたはパスにマウントすると、その後の検出では、新しく作成されたファイルシステムのCloudPointの資産データベースが更新されます。また、同じドライブまたはマウントポイントにマウントされている古いファイルシステムの資産は、削除対象としてマークされますが、資産データベースからは削除されません。これは、古いファイルシステムの資産に関連付けられたスナップショットが存在しない場合、保持期間が1日であるためです。この場合、同じドライブまたはマウントパスをターゲットとして個別リストアを開始すると、エラーが発生して操作が失敗することがあります。この問題は、このようなドライブまたはマウントパスで1日後に個別リストアを試行した場合には発生しません。ドライブまたはマウントパスから既存のディスクをマウント解除し、別のファイルシステムを同じドライブまたはマウントパスにマウントした場合にも、この問題は発生します。

回避方法:

最後に検出されたマウントポイントまたはドライブ上の、既存のファイルシステムまたは新しく作成されたファイルシステムから再作成された個別リストアのターゲットとして、ファイルシステムを使用しないでください。

## Govクラウドまたは中国地域でパブリッククラウドがサポートされない

Govクラウドまたは中国地域のクラウドを使用してパブリッククラウドの地域プラグインを設定しようとすると、次のエラーが発生します。

Plug-in authentication failed. Credentials are invalid.

## AWSマーケットプレースAMIから作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない

AWSマーケットプレースAMIから作成されたインスタンスのインデックス付け処理は、次のエラーで失敗します。

```
Failed to attach new volume: Cannot attach volume <vol-xxx>
with Marketplace codes as the instance <i-xxx>
is not in the 'stopped' state.
```

## 一貫したホストスナップショットが失敗する場合がある

次のエラーが表示され、一貫したホストのスナップショットが失敗することがあります。

```
The host level snapshot of <host_nam> cannot be performed as asset
hierarchy is incomplete.
```

この問題は次のいずれかの理由で発生します。

- 個別リストアは、ホスト上で最後の10分間に実行されています。

- 新しいディスクがホストに接続されており、必要な資産の検出が完了していません。

## [認証方式 (Authentication Method)] フィールドに空白が表示された IAM ロールを持つ AWS プラグインの構成

NetBackup にすでに追加された CloudPoint サーバーに IAM ロールを接続すると、NetBackup でロールが割り当てられません。

回避方法:

次のコマンドを使用して CloudPoint と NetBackup を同期する必要があります。

```
/usr/openv/volmgr/bin/tpconfig -update -cloudpoint_server <ip/name  
which CP is registered in NBU> -cloudpoint_server_user_id admin  
-manage_workload CLOUD
```

## ユーザーとパスワードの両方が更新されると権限拒否エラーが発生する

標準以外のユーザーで CloudPoint サーバーのエージェントレス接続のクレデンシャルを更新しようとすると、問題が発生することがあります。特定の VM で新しいユーザーを作成する場合、そのユーザーは sudoers ファイルの一部である必要があります。そうでない場合、接続は失敗します。新しいユーザーは、パスワードなしで sudo コマンドを使用して root 操作を実行する権限を持っている必要があります。

回避方法:

この問題を回避するには、次のようにします。

- パスワードなしの sudo コマンドが構成されていることを確認します。/etc/sudoers ファイルのユーザーエントリを確認します。
- バイナリ flexsnap エージェントレスおよびプラグインが、古いユーザーで作成されていないことを確認します。古いユーザーで作成された場合は、ファイルを削除します。

## Google Cloud Platform の異なるソースおよびターゲットゾーンがサポートされない

Google Cloud Platform では、すべてのゾーンにわたるリストアスナップショットが許可されていますが、CloudPoint サーバーでは、リストアのソースの場所とターゲットの場所をプラグイン構成ごとに異なるゾーンに設定することはできません。この問題は、ゾーンが構成ごとに管理されていて、構成に含まれていないゾーンへのリストアはサポートされないために発生します。

回避方法:

ソースの場所とターゲットの場所が、プラグインの構成と同じゾーンにあることを確認します。

## 壊れたファイルシステムが検出される

リストア処理中に CloudPoint サーバーで破損したファイルシステムが検出されることがあります。この場合、スーパー・ロックが無効、または構造のクリーニングが必要のエラーでマウントが失敗します。

## NetBackup Deduplication に関する注意事項

NetBackup は、必要なかぎりデータソースに近い任意の場所でデータを重複排除できるいくつかの重複排除オプションを提供します。任意の場所での重複排除では、バックアップ処理のどの時点で重複排除を実行するかを選択できます。NetBackup は、NetBackup Deduplication Engine を使用する環境の重複排除を管理できます。この項では、NetBackup 9.1.0.1 の NetBackup Deduplication Engine に関する注意事項および既知の問題について説明します。

MSDP の互換性に関する最新情報について詳しくは、[NetBackup Enterprise Server とサーバー OS のソフトウェア互換性リスト](#)を参照してください。

## マルチドメイン環境の WORM ストレージサーバーで「ストレージサーバーが停止しています... (Storage server is down ...)」エラーによりバックアップジョブが失敗する

2 つのドメイン（両方が NetBackup マスター・サーバー）が MSDP ユーザー名を共有するマルチドメイン環境では問題が発生します。

ドメイン 1 とドメイン 2 の MSDP ユーザー名が同じで、ドメイン 1 が NetBackup WORM ストレージサーバーを作成し、ドメイン 2 が WORM ストレージサーバーに接続するように構成されている場合、バックアップジョブはエラー「Storage Server is down or unavailable」を表示して失敗します。

回避方法:

1. ドメイン 2 の新しいユーザーを作成します。NetBackup WORM ストレージサーバーで、次のコマンドを実行して MSDP ユーザーを作成します。

```
setting MSDP-user add-MSDP-user username=user_name
```

2. ドメイン 2 で、次の NetBackup コマンドを実行して、新しいユーザーを使用するよう NetBackup WORM ストレージサーバーを更新します。

```
tpconfig -add -stype PureDisk -storage_server <storageserver>
-sts_user_id <user id> -password <password>
```

3. NetBackup WORM ストレージサーバーで、NetBackup Deduplication Manager (spad) を停止してから再起動します。

```
dedupe MSDP stop
```

```
dedupe MSDP start
```

## NetBackup for NDMP の操作上の注意事項

NetBackup for NDMP は、NetBackup のオプション製品です。Network Data Management Protocol (NDMP) を使用して、NetBackup で Network Attached Storage (NAS) システムのバックアップおよびリストアを開始および制御できます。このトピックでは、NetBackup9.1.0.1 の NetBackup for NDMP に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の set type=tar 指示句で設定している場合に、問題が起きことがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

## NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項

NetBackup for OpenStack はオプションの NetBackup アプリケーションです。このトピックでは、NetBackup 9.1.0.1 の NetBackup for OpenStack に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

### 増分バックアップのインスタンスピリュームをマウントできない

増分バックアップ用インスタンスに新たに追加されたディスクは正常にバックアップされますが、これらのディスクはマウントできません。

### NetBackup for OpenStack VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup マスターサーバーがトークンを再発行しない

NetBackup for OpenStack VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup for OpenStack コンフィギュレータにおける NetBackup 証明書のトークンの再発行が機能しません。

回避方法:

この問題を解決するには、マスターサーバーでトークンの自動再発行の許可を有効にします。NetBackup for OpenStack コンフィギュレータの[トークン (Token)]フィールドに "" と入力する必要があります。この構成では、マスターサーバーが提供した証明書が NetBackup for OpenStack VM にすでに存在する場合は続行できます。

## Web UI で NetBackup のバージョンが「NetBackup-CentOS3.10.0 9.0」ではなく「Netbackup\_9001\_beta1」と表示される

NetBackup for OpenStack VM では、バージョン NetBackup-CentOS3.10.0 9.0 が /usr/openv/netbackup/bin/version に表示されます。NetBackup Web UI にはこれと同じバージョンは表示されず、代わりに Netbackup\_9001\_beta1 と表示されます。

## スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される

スナップショットがあるポリシーを削除すると、次の成功メッセージとエラーメッセージが表示されます。ただしポリシーは削除されないため、エラーメッセージのみが表示されるべきです。

- Error: Invalid state: This workload contains snapshots. Please delete all snapshots and try again.
- Success: Deleted: <policy name>

## NBCA を使用して NetBackup マスターサーバーに接続できない

NetBackup for OpenStack VM の構成中に NetBackup マスターサーバー名を入力すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failed to establish connection with the NetBackup master server.  
Error: HTTPSConnectionPool(host='NBU.master.server', port=443): Max  
retries exceeded with url: /netbackup/security/ping (Caused by  
NewConnectionError('<urllib3.connection.HTTPSConnection object at  
0x7f9e466b0ef0>: Failed to establish a new connection: [Errno -2]  
Name or service not known',))
```

回避方法:

この問題を解決するには、/etc/hosts に IP ホスト名マッピングを追加します。

詳しくは、次のサポート記事を参照してください。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/article.100045941](https://www.veritas.com/support/en_US/article.100045941)

## リストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマットできない

Ceph に格納されている VM ボリュームは、必要に応じてバックアップから正常に除外されます。

リストアによって空の Ceph ボリュームが作成されますが、このボリュームは接続またはフォーマットできません。

## リストアされた VM に空のメタデータ config\_drive が接続される

リストアのたびに、メタデータ config\_drive が空白値で設定されます。

回避方法:

メタデータ config\_drive を削除するか、必要な値を設定します。

## 新しい NetBackup for OpenStack VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構成に失敗する

既存の NetBackup for OpenStack VM にノードを追加すると、NetBackup for OpenStack の再構成に失敗します。

理由は、以前の MySQL パスワードが機能しておらず、MySQL のルートアクセスがリセットされたためです。

回避方法:

構成済みの NetBackup for OpenStack VM の /root/.my.cnf ファイルを削除し、再構成します。

## NetBackup for OpenStack クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同期されない

NetBackup for OpenStack の再構成後に、既存の NetBackup for OpenStack VM クラスタにさらに 2 つのノードを追加した場合（「インポートポリシー」が未選択）、データベースは既存の NetBackup for OpenStack VM と同期されません。

2 つの新しいノードを追加する間、node1 のデータベースが 2 つの新しいノードと同期され、新しい 3 ノードの NetBackup for OpenStack VM クラスタで再構成後に既存のポリシーを利用できることが期待されます。

回避方法:

CLI からポリシーのインポートを実行します。

## ブートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアップされる

VM のメタデータ `exclude_boot_disk_from_backup` は `true` に設定されていましたが、リストアされたインスタンスは、データがバックアップおよびリストアされたことを示しています。

## 再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない

再初期化では、OpenStack との通信に使用されるアップロード済みの OpenStack 証明書は保持されません。

回避方法:

証明書を再度アップロードします。

## CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更される

CLI でインポート機能を使用すると、スケジューラの信頼が有効から無効に変更されます。

回避方法:

再初期化後に、UI からインポートオプションを使用して NetBackup を構成します。

## NetBackup for OpenStack Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得できない

NetBackup for OpenStack Appliance を再初期化した後、UI と CLI にノードの情報が表示されません。

回避方法:

NetBackup for OpenStack ノードで `wlm-workloads` および `wlm-cron` サービスを再起動します。

```
systemctl restart wlm-workloads
```

```
systemctl restart wlm-cron
```

## 多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscriptable」で失敗する

25 を超える作業負荷を同時に実行すると、エラーが発生します。nbosdmapi サービスが応答しません。

スナップショットは Object is not subscriptable. エラーで失敗します。

回避方法:

既知の回避方法を実行するには、ベリタスのサポートにお問い合わせください。

## SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない

SSL 対応 OpenStack の場合、TLS CA 証明書バンドルの欠落エラーでバックアップジョブとリストアジョブが失敗します。

回避方法:

提供された OpenStack CA を使用して NetBackup for OpenStack Appliance を構成します。

または、OpenStack CA を /etc/workloadmgr/ca-chain.pem に含めます。

# NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 9.1.0.1 の国際化、日本語化、および英語以外のロケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:  
データファイルパス、テーブルスペース名、TNS パス
- DB2:  
データファイルパス、テーブルスペース名
- SAP:  
英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- Exchange:  
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:  
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト

- Lotus Notes:  
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:  
ボルトストア、パーテイション、データ
- VMware:  
ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

## 特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (プライマリサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント、インスタンスグループ)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名

# NetBackup Snapshot Client の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Client は NetBackup に各種のスナップショットベースの機能を提供します。ファイバーチャネルネットワーク (SAN) または従来の LAN に接続されている UNIX、Linux および Windows プラットフォームのクライアントがサポートされています。それぞれのスナップショット方式は、データが格納されるストレージサブシステムに組み込まれているスナップショットテクノロジに依存します。この項では、NetBackup 9.1.0.1 の Snapshot Client に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## スナップショットジョブが状態コード 927 で失敗する

スナップショットジョブが状態コード 927 で失敗する: 構成済みのバックアップホストプールにはジョブの実行のためのバックアップホストがありません。**(No backup host from configured backup host pool is available for job execution.)**

この問題は、マスターサーバーを NetBackup 8.3 から NetBackup 9.1 にアップグレードする際に、プールにある 1 つ以上のバックアップホストをアップグレードしなかった場合に発生します。この状況では、NAS のアクセラレータ対応 DNAS ポリシーが失敗します。

回避方法:

バックアップホストプールにある 1 つ以上のバックアップホストとともに、マスターサーバーを NetBackup 8.3 から NetBackup 9.1 にアップグレードします。その後、NAS のアクセラレータ対応 DNAS ポリシーを実行します。

## HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートが状態コード 4213 で失敗する

HPE 3PAR アレイのスナップショットのインポートは、状態コード 4213 で失敗します。現在、CloudPoint は VSO(仮想サーバー所有者)スナップショット方式で、「クローン」のスナップショット形式をサポートしていません。

回避策: 「COW」(コピーオンライン)のスナップショット形式を使用してポリシーを再構成してください。

## 指定した時点へのロールバック後のスナップショットの削除

ネットワーク接続ストレージ (NAS) の VSO FIM スナップショット方式では、古い複製から指定した時点へのロールバックを実行すると、その時点以降のスナップショットがストレージアレイから削除されます。この動作により、NetBackup イメージの一貫性がなくなるため、イメージは削除されます。

同様に、いずれかのマウントポイントから指定した時点に古いスナップショットをロールバックすると、そのマウントポイントに関連付けられているスナップショットのみが削除されます。イメージも、一貫性がなくなるため削除されます。ただし、他のマウントポイントに属する他

のスナップショットはストレージアレイに残ったままであるため、手動でクリーンアップする必要があります。

## スナップショットからのインデックス操作でスナップショットの内容がカタログに正確に入力されない

---

**メモ:** この問題は、オンプレミスの作業負荷と UNIX プラットフォームに固有です。

---

スナップショットからインデックス操作を行う場合、スナップショットのマウントホスト上で /usr/openv ディレクトリが別のパスにリンクされていると、スナップショットの内容がカタログ内で正確にインデックス付けされません。

回避策: スナップショット操作のみが存在するようにストレージライフサイクルポリシーを再構成して、スナップショットからのインデックス操作を削除します。

## NetBackup 仮想化の操作上の注意事項

NetBackup には、仮想環境を保護するためのいくつかの方法が用意されています。

NetBackup は、主に VMware と Hyper-V という 2 つの仮想化技術を保護できますが、他の仮想化技術も NetBackup によって保護できます。このトピックでは、NetBackup 9.1.0.1 による仮想化技術の保護に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

## RHV VM のバックアップとリストアに最小限の権限を持つ役割が必要

Red Hat Virtualization (RHV) 仮想マシン (VM) のバックアップとリストアを実行するには、最小限の権限を持つ役割を作成する必要があります。管理者アカウントの種類を使用して役割を作成することをお勧めします。この役割には、バックアップとリストアの操作を実行するために必要なすべての権限が付与されています。詳しくは、次の記事を参照してください。

方法: バックアップとリストア用の最小限の権限で Red Hat Virtualization 役割を構成する

# NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)

## Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、Veritas エンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができるかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト  
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができるかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor  
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート  
このツールを使うと、システムと Veritas エンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定  
このツールを使用すると、今後 Veritas が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後 Veritas が置き換えることなく廃止する項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、サードパーティ製品の統合、Veritas 製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

# NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)

## NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示について詳しくは、『[NetBackup インストールガイド](#)』および『[NetBackup アップグレードガイド](#)』に記載されています。

p.15 の『[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)』を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- データベースの再構築は、多くの場合、NetBackup のメジャー、マイナー（一重ドット）、およびリリース更新（二重ドット）の各バージョンで発生します。したがって、NetBackup 9.1.0.1 にアップグレードする前に、NetBackup データベースのサイズ以上の空きディスク領域が利用可能になっている必要があります。つまり、デフォルトインストールに対して、/usr/openv/db/data (UNIX) または `<install_path>\Veritas\NetBackupDB\data (Windows)` のディレクトリを含むファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空

き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納について詳しく述べ、『[NetBackup 管理者ガイド Vol. 1](#)』を参照してください。

---

**メモ:** この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

---

- プライマリサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Veritas のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。  
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のプライマリサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- Veritas は、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、プライマリサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、バイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

## NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup 互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1, n.2 など) または SPS (SP1, SP2 など)。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リストで特定されます。このような互換性の問題

が見られない場合、Veritas は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。表 B-1 には、NetBackup 9.1.0.1 に必要な OS の更新とパッチが含まれています。ただし、この情報はリリース間で変わる場合があります。NetBackup 9.1.0.1 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、Veritas SORT (Services and Operational Readiness Tools) Web サイトおよび NetBackup 互換性リストで確認できます。

p.52 の「NetBackup の互換性リストと情報について」を参照してください。

p.44 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

---

**メモ:** OS ベンダーは、表 B-1 にリストされているパッチよりも優先されるまたはそれに置き換わる最新の更新またはパッチをリリースしている可能性があります。この表と SORT にリストされている OS パッチは、NetBackup のインストールと実行に必要な最小のパッチレベルであると見なしてください。表 B-1 にリストされている OS 更新、パッチ、パッチバンドルに優先するまたは置き換わるものは、特に指定していないかぎりサポートされます。Veritas 個々の OS ベンダーのサポート Web サイトを参照して最新のパッチ情報を入手することをお勧めします。

---



---

**メモ:** 表 B-1 に記載されている NetBackup クライアント向けの必須パッチも、クライアントが適切に動作するためにマスターサーバーとメディアサーバーにインストールする必要があります。

---

表 B-1 に必要なオペレーティングシステムパッチと更新  
SORT\_do\_not\_remove\_os\_patchesNetBackup9.1.0.1

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Beijing Linx Software Corp Linx OS	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32.26 以降	
CentOS 6.x	マスター、メディア、クライアント	カーネル 2.6.32-608.el6 以降	
CentOS 7.x	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-241.el7 以降	

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
Debian 8	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.16.7-1 以降	詳細情報を参照できます。 <a href="#">Debian 8 リリースノート</a>
HP-UX IA-64	クライアントのみ	Networking.NET-RUN: /usr/lib/libipv6.sl	
	クライアントのみ	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libipv6.1	
	クライアントのみ	Networking.NET-RUN-64: /usr/lib/pa20_64/libipv6.sl	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libipv6.so	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux32/libipv6.so.1	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libipv6.so	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/hpux64/libipv6.so.1	
	クライアントのみ	Networking.NET2-RUN: /usr/lib/libipv6.1	
HP-UX 11.31	メディア	QPK1131 (B.11.31.1003.347a) パッチバンドル	このパッチバンドルは NetBackup メディアサーバーのサポートに必要です。これは HP-UX March 2010 パッチバンドルです。
Oracle Linux 7	メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.1 以降	詳細情報を参照できます。 <a href="#">カーネルのセキュリティとバグ修正に関する更新</a>
Red Hat Enterprise Linux 7	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.10.0-229.7.2.el7 以降	詳細情報を参照できます。 <a href="#">Red Hat テクニカルノート</a> <a href="#">RHSA-2015:1137 - セキュリティアドバイザリ</a>
SUSE Linux 11	マスター、メディア、クライアント	SUSE Linux Enterprise 11 Service Pack 3 以降	詳細情報を参照できます。 <a href="#">Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2014:1695-1</a>

オペレーティングシステムの種類とバージョン	NetBackup の役割	パッチ	注意事項
SUSE Linux 12	マスター、メディア、クライアント	カーネル 3.12.31 以降	詳細情報を参照できます。 <a href="#">Linux カーネルのセキュリティ更新: SUSE-SU-2015:0068-1</a>

Veritas では、Windows オペレーティングシステムで NetBackup を実行する場合は、次の更新をお勧めします。

- Symantec AntiVirus。最新版と最新アップデートへの更新 (必須)。
- SYMEVENT ドライバの更新 (必須)。最新バージョンのドライバに更新してください。

# NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

## NetBackup のバージョン間の互換性について

プライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを1つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

Veritas ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序を OpsCenter サーバー、プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントのようにします。たとえば、9.0 OpsCenter サーバー > 8.3.0.1 プライマリサーバー > 8.3 メディアサーバー > 8.0 クライアントというシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて4桁の長です。NetBackup 9.0 リリースは 9.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 8.3 リリースは NetBackup 8.3.0.0 リリースです。サポート目的では、4番目の数字は無視されます。8.3 プライマリサーバーは 8.3.0.1 メディアサーバーをサポートします。同様に、8.3.0.1 プライマリサーバーは 8.3 OpsCenter サーバーをサポートします。サポートされない例は、8.3 OpsCenter サーバーと 9.0 プライマリサーバーです。

NetBackup カタログはプライマリサーバー上に存在します。したがって、プライマリサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディアサーバーが含まれている場合は、プライマリサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、[Veritas SORT Web サイト](#)を参照してください。

Veritas は [EOSL](#) 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

## NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.44 の [「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」](#) を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができているか評価します。

### NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。これらの互換性リストは次の場所にある Veritas のサポート Web サイトで見つけることができます。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

---

**メモ:** 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の[NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)]の順に選択します。

---

## NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Veritas は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Veritas社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン
- 新しい NetBackup の機能

Veritas が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Veritas社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Veritas社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。Veritas 可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能な限り早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

## SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある[NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 ( Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

[https://sort.veritas.com/eosl/show\\_matrix](https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix)

p.44 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

## プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 9.1.0.1 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.11 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

# 他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

## NetBackup の関連マニュアルについて

Veritasは、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のないかぎり、NetBackup のマニュアルは[「NetBackup Documentation Landing Page」](#)から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 9.1.0.1 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

---

**メモ:** Veritas は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。

---